

第8回 次世代型太陽電池の導入及び産業競争力強化に向けた官民協議会 武藤容治経済産業大臣 挨拶全文

本日もお忙しい中、大変多くの関係者の皆様にお集まりいただき感謝を申し上げます。経済産業大臣の武藤容治です。

「次世代型太陽電池の官民協議会」の開催に当たり、一言申し上げます。

昨年7月に「GX推進戦略」を閣議決定し、エネルギー安定供給と脱炭素の両立に向けて、省エネに加え、再エネや原子力などの脱炭素電源への転換を進める方針を明確にしました。

さらに、今後は、生成AIの普及などのDXやGXの進展による電力需要の増加が見込まれます。そのような中、それに見合った脱炭素電源の確保が、国力を大きく左右することになる状況です。

太陽光発電は、2012年の「再エネ特措法」施行以降、大きく導入が進んできました。その一方で、①「地域との共生」を巡る課題が顕在化するとともに、②「技術で勝って事業で負ける」という苦い経験もありました。

このような中、日本発の技術であり、壁や曲面にも設置ができ、主要原材料のヨウ素は日本で産出できる、といった特徴を持つ「次世代型太陽電池・ペロブスカイト太陽電池」は、脱炭素化と産業競争力を同時に達成していく、いわば「切り札」です。

なんとしても、この社会実装を成功させていく必要があります。

そのためには、官民が連携し、世界に引けを取らない「規模」と「スピード」で取り組んでいくことが不可欠です。

委員をはじめとする皆様には、その包括的な「戦略」のとりまとめに向け、精力的に議論を重ねて頂きましたこと、心より感謝を申し上げます。この「次世代型太陽電池戦略」が、研究者、メーカー、ユーザーはじめ幅広い関係者が果敢に取組を進める「道しるべ」となり、ペロブスカイトが世界に誇れる産業として羽ばたき、我が国のGXの取組を力強く牽引していくことを期待し、私の挨拶といたします。ありがとうございました。